

U3章 形容詞の使い方6とおり

形容詞を6とおりで使用していることを次の順序で説明します。

- ◎ まず「活用表」と「4種類の修飾法」で、(1)～(6)を示します。(28)
- (1) 文を終止する (29)
 - (1) 終止用法 描写詞 -i
- (2) 主文を続ける (29)
 - (2a) 中止用法 描写詞 -u
 - (2b) 条件用法 描写詞 -ereba
- (3) 他属性や実体と関連づける (30)
 - (3a) 他属性連続用法 描写詞 -u
 - (3b) 実体修飾法 (修飾第1用法) 描写詞 -i
 - (3c) 実体作成用法 (修飾第2用法) 描写詞 -u
- (4) 実体つなぎ用法「の」 修飾第3用法 実体つなぎ描写詞 の (34)
 - (4) 実体つなぎ用法 描写詞 の
- (5) 実体つなぎ用法「+」 修飾第4用法 実体つなぎ描写詞 + (35)
 - (5a) 実体どうしつなぎ用法 + (無音)
 - (5b) 小円筒とのつなぎ用法 + (無音)
 - (5c) 包含実体(大円筒)とのつなぎ用法 + (無音)
- (6) 形容実体の他の用法 (39)
 - (6a) 感動表現の用法
 - (6b) 動辞との融合用法

U3 形容詞の使い方6とおり

(1)~(6)で説明します。

C5.10, S1.13

形容詞の活用表

表にある □ の中の文字は発音されません。

形容詞の活用表(付加形態素表)と拡大活用表を下に示します。

表U3-1 形容詞活用表 (付加形態素表) (表S1-5参照, 答S1-27参照)

形容詞活用表		形容詞拡大活用表 (例)	
付加形態素の機能 ()内は説明順の番号	付加形態素表 (語幹例: tika.k-)	付加形態素表 (二次的付加形式を含む)	語 例 (形態の名称は省略)
構造の形を変えない	(1)文を終止する	① -i 終止	-i 近い。
	(2a) (2)主文を続ける	④ -u 中止め	-u 近く,
	(2b)	⑤ -ereba 条件	-ereba 近ければ,
	(3a) (3)他属性や実体と関連づける	⑥ -u 他属性連続	-u=tc-Øi -u=na.□i ※ -u=ar-i=mas-en-□i ※ -u=ar-oo -u=ar-i-t-Øi=ar-u -u=ar-i-t-Øi=ar-aba -u=ar-i-t-Øi=ar-i -u=gozar-□i=mas-u
(3b)	⑦ -i 修飾第1	-i -i=Ø包-to -i=Ø包-n□=ar-a(ba)	近い[ところ] 近いと 近いならば)
		(3c) ⑧ -u 修飾第2	-u=Ø包

※ -u=na.□i (近くない), -u=ar-i=mas-en-□i (近くありません) は構造の形を否定に変えます。

4種類の修飾法

実体(名詞)を修飾するためには4つの方法があります。

表U3-2 4種類の修飾法 (形容詞の場合)

A16.1

	形容詞の場合	修飾力	例
(3b) 第1修飾法	形容属性による修飾	-i	aka.□i 車 (上表中の⑦)
(3c) 第2修飾法	形容属性による修飾	-u	too.k-u Ø包 (上表中の⑧)
(4) 第3修飾法	形容実体による修飾	の	natukasi の 歌声
(5) 第4修飾法	形容実体による修飾	+(無音)	aka + シャツ

(6) 形容実体の他の用法 もあります。

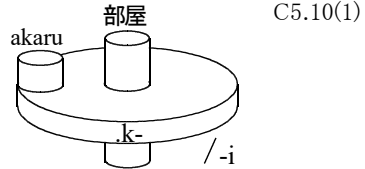
左ページ表中の(1)～(6)の番号に従って、6とおりの使い方を説明します。

(1) 文を終止する

(1) 終止用法 描写詞 **-i**

描写詞 **-i** は文を終止させます。

★部屋は akaru.k*i*。



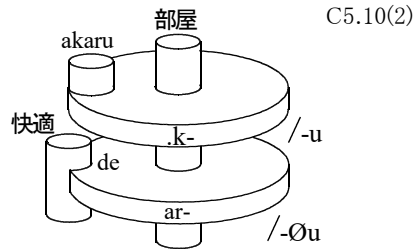
図U3-1 部屋の1は明るい。

(2) 主文を続ける

(2a) 中止用法 描写詞 **-u**

描写詞 **-u** は文を中止させて、そのあとに主文を続けます。

★部屋は akaru.ku, 快適だ。



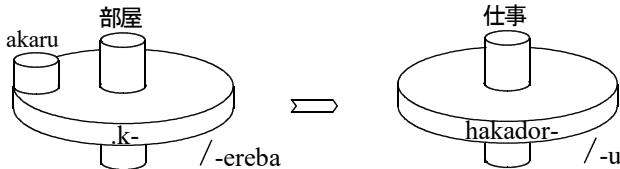
図U3-2 部屋の1は明るく, 快適だ

(2b) 条件用法 描写詞 **-ereba**

C5.10(2)

描写詞 **-ereba** も文を(条件表示で)中止させて、(帰結の)主文を続けます。

★部屋が akaru.kereba, 仕事ははかどる。



図U3-3 部屋が明るければ, 仕事ははかどる

活用形⑤ **-ereba** について

条件を表す活用形⑤ **-ereba** は将来研究が進めば、**-i=ar-eba** と構造解明される可能性があります。そうなれば、**-ereba** は活用形ではなくなり、恐らく⑦の **-i** から拡張された拡大活用形となります。**-eba** と **-aba** についてはA6章参照。

(3) 他属性や実体と関連づける

C5.10(3)

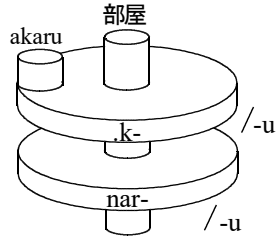
(3a) 他属性連続用法 描写詞 -u

描写詞 -u は他の属性を続けます。

- ★ 部屋が akaru.k-u nar-u
- ★ akaru.k-u=te-Ø 良い。
- ★ akaru.k-ar-i=t-Ø=a-Ø
- ★ akaru.k-u=ar-i=mas-en-Ø

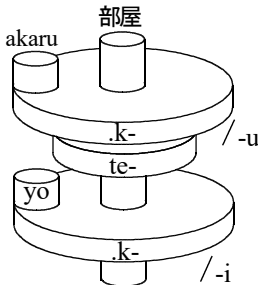
形容詞直接の否定もこれを使います。

- ★ akaru.k-u na.k-i



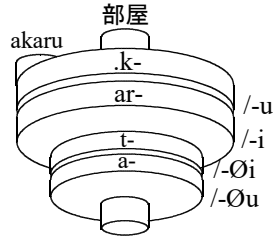
akaru.k-u nar-u

図U3-4 明るくなる



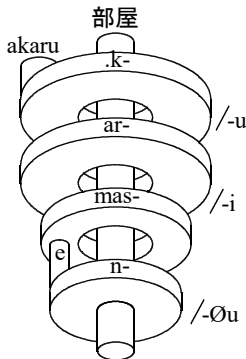
akaru.k-u=te-Ø yo.k-i

図U3-5 明るくて良い



akaru.k-ar-i=t-Ø=a-Ø

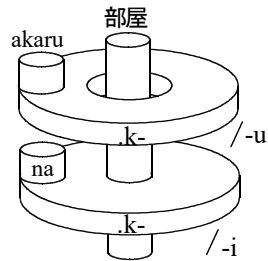
図U3-6 明るくあった



akaru.k-u=ar-i=mas-en-Ø

図U3-7 明るくありません

[直接の否定] (U6章参照)



akaru.k-u na.k-i

図U3-8 明るくない

問U3-1 形容詞と動詞の否定の違いは何ですか。

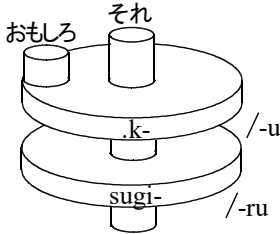
問U3-2 「それは珍しくない」「それは珍しく(今日は)ない」の構造の違いの説明。

問U3-3 「白い紙で鶴を折る」の構造を示してください。

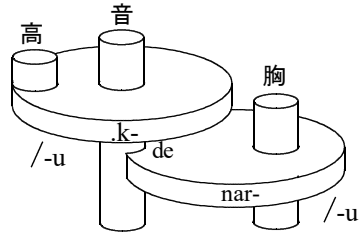
k-u の部分が発音されない表現もあります。

★それの1は omosiro k-u sugi-ru (おもしろすぎる)

★胸が taka k-u nar-u (たかなる)



図U3-9 (それは) おもしろすぎる



図U3-10 (胸が) 高鳴る

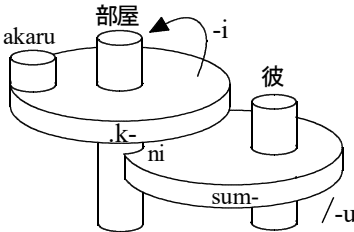
(3b) 実体修飾用法 (修飾第1用法) 描写詞 -i

C5.10(3)

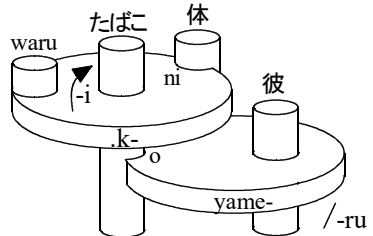
描写詞 -i は実体(名詞)を修飾します。

★ akaru k-i 部屋に住む。

★ 体に waru k-i たばこをやめる。

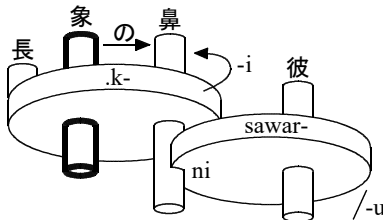


図U3-11 明るい部屋に住む

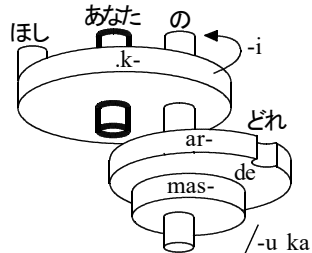


図U3-12 体に悪いタバコをやめる

★象の naga k-i 鼻 にさわる。(この「の」については次項 (4) 参照。)



図U3-13 象の長い鼻にさわる



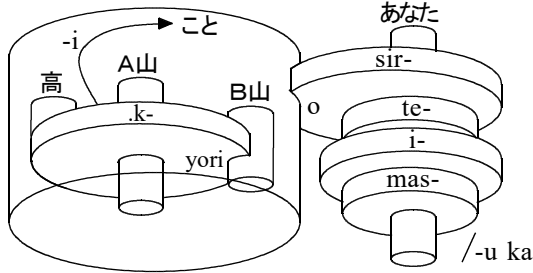
図U3-14 ほしいのはどれですか

★あなたが hosi k-i のはどれですか。 の下線のついた「の」のように名詞の代わりに使用される「の」(36.6参照)を修飾することもあります。(上図U3-14)

描写詞 -i は包含実体も修飾して，形容詞を実体化(名詞化)します。

○包含実体が「こと」の例

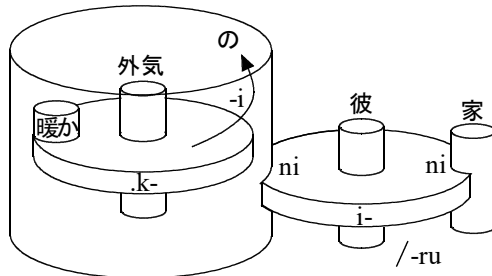
★A山がB山より taka.k-i ことを知っていますか。



図U3-15 A山がB山より高いことを知っていますか

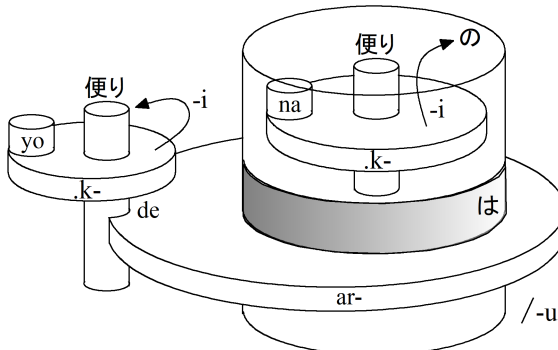
○包含実体が「の」(36.8-9参照)の例

★(外気が) atataka.k-i=no-ni ie-ni i-ru。 (暖かいのに)



図U3-16 暖かいのに，家にいる

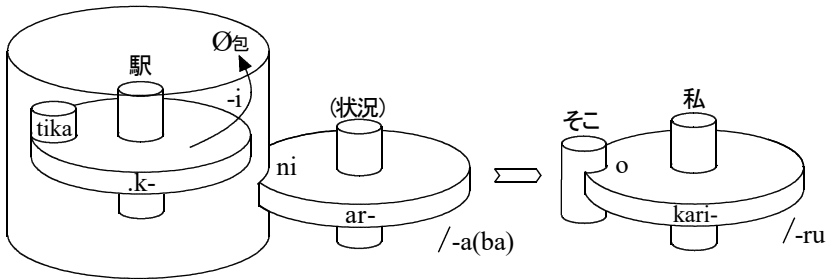
★便りが na.k-i=no-01-wa yo.k-i 便り(-de ar-u)。 (便りが無いのは)



図U3-17 便りが無いの01は良い便り

○包含実体が「0」の例（「0包」と表示します。）

★駅が tika.k-i=0包-ni=ar-a(ba), そこを借りる。（近いならば）



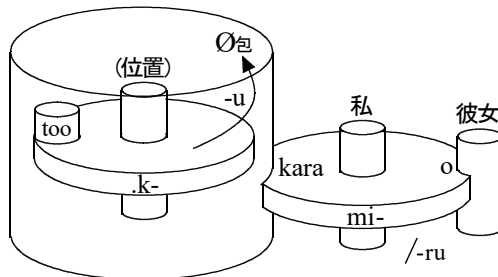
図U3-18 駅が近いならば、そこを借りる

(3c) 実体作成用法（修飾第2用法） 描写詞 -u

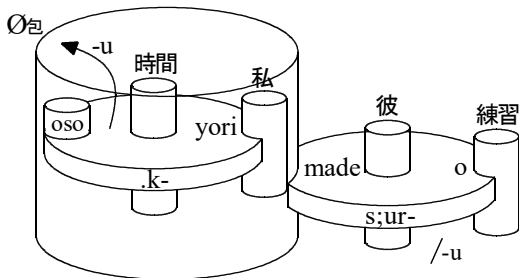
C5.10(3)

描写詞 -u はゼロの包含実体(名詞)を修飾し、実体(名詞)を作ります。

★ too.k-u=0包-kara 彼女を見る。 ★ oso.k-u=0包-made 練習をする。



図U3-19 遠くから彼女を見る



図U3-20 彼の1は私より遅くまで練習をする

問U3-4 「物語は悲しすぎる。」の構造を図示してください。

問U3-5 「<シン・ゴジラ>はおもしろいので、彼に薦める。」の構造の図示。

(4) 実体つなぎ用法「の」 修飾第3用法 実体つなぎ描写詞 の

8.4, 37.6, S1.6

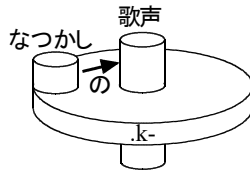
(4) 実体つなぎ用法 描写詞 の

19.3(特徴2~4)

形容実詞が「の」により他の実詞と結びつけられます。

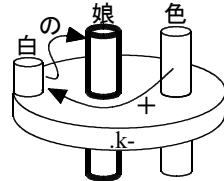
★ natukasi-no 歌声 (懐かしの歌声)

★ 色 + 白-no 娘 (色白の娘)……「+」については次の(5)参照。



歌声の1は懐かしい

図U3-21 懐かしの歌声

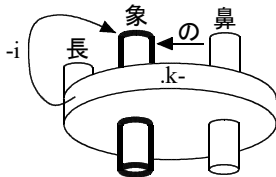


娘の1は色が白い

図U3-22 色+白の 娘

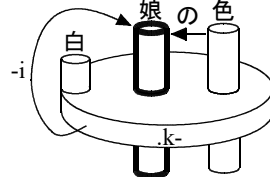
形容詞の主体どうしが「の」で結ばれることもあります。

★ 鼻の長い象, 色の白い娘



象の1は鼻が長い

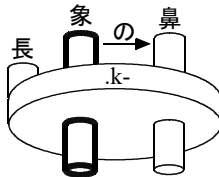
図U3-23 鼻の長い象



娘の1は色が白い

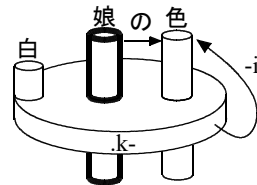
図U3-24 色の白い娘

★ 象の鼻, 娘の白い色



象の1は鼻が長い

図U3-25 象の鼻



娘の1は色が白い

図U3-26 娘の 白い色

問U3-6 「朝早く起きる。」の構造を図示してください。

問U3-7 「永の別れ」の「の」は構造のどこにありますか。

問U3-8 「美しの森」, 「美し森」(名称)の構造を図示してください。

問U3-9 「話のおもしろい叔父」「叔父のおもしろい話」の構造を図示してください。

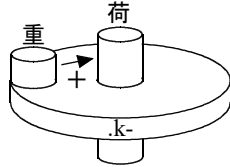
問U3-10 「おもしろい叔父の話」の異なる構造を3つ示してください。

(5) 実体つなぎ用法「+」 修飾第4用法 実体つなぎ描写詞 + (無音) A17.2⑩

(5a) 実体どうしつなぎ用法 + (無音)

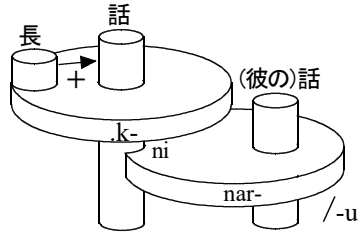
実体と実体を無音で結びつけます。

★形容実体+実体……重+荷, 長+話



荷が重い

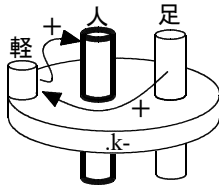
図U3-27 重+荷



話が長い

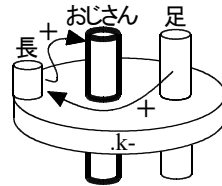
図U3-28 (彼の話)の1は長+話になる

★実体+形容実体……足+軽+(人), 足+長+おじさん



人01は足が軽い

図U3-29 足+軽+(人)



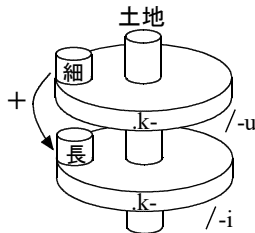
おじさん01は足が長い

図U3-30 足+長+おじさん

★形容実体+形容実体……細+長.k- (下左図)

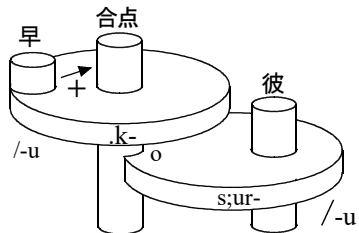
★形容実体+実体……早+合点 (下右図)

記号「;」はB5章p.60参照



土地01は細く長い

図U3-31 細+長.k-



合点が早い

図U3-32 早+合点-(o) s;ur-u

問U3-11 「長電話をやめる。」の構造を図示してください。

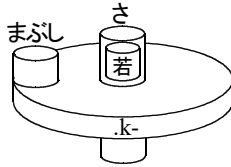
問U3-12 「うれし涙を流す。」の構造を図示してください。

(5b) 小円筒とのつなぎ用法 + (無音)

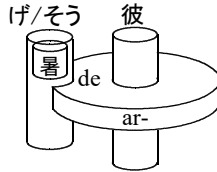
A17.1⑥

形容実体が小円筒(カプセル)に入り、両者を無音でつないで、形容実体を実体化(名詞化)します。ここに成立する実体は格位置に立ちます。

- ★小円筒「さ」「け」……………その状態・気持ちなどそのもの。その程度。
重+さ, 固+さ, 高+さ, 楽+さ, 近+さ / 眠+け, 寒+け
- ★小円筒「げ/そう」…その様態がいかにも実現している様子。
暑+げ, はずかし+げ / 寒+そう, はずかし+そう

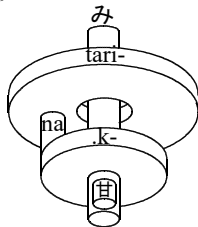


若さがまぶし.k-
図U3-33 若+さ

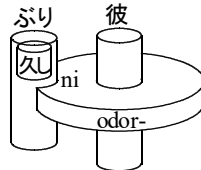


彼の1は暑げ/暑そうだ
図U3-34 暑+げ/暑+そう

- ★小円筒「み」……………その状態・性質。
甘+み, 明る+み, 重+み, 苦し+み, 高+み, 楽+み, 深+み
- ★小円筒「ぶり」……………それだけの時間の経過。
久し+ぶり

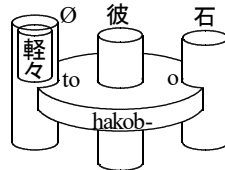


甘みが足りな.k-
図U3-35 甘+み



彼が久しぶりに踊る
図U3-36 久し+ぶり

- ★小円筒「〇」……………形容実詞重ねて表す様態。
軽々+〇-to, 軽々+〇-〇2
赤々+〇-to, 近々+〇-〇2
早々+〇-to, 薄々+〇-〇2
丸々+〇-to, 長々+〇-〇2



図U3-37 軽々+〇-to 運ぶ

問U3-13 「眠気に襲われる。」の構造を図示してください。

問U3-14 「事実を明るみに出す。」の構造を図示してください。

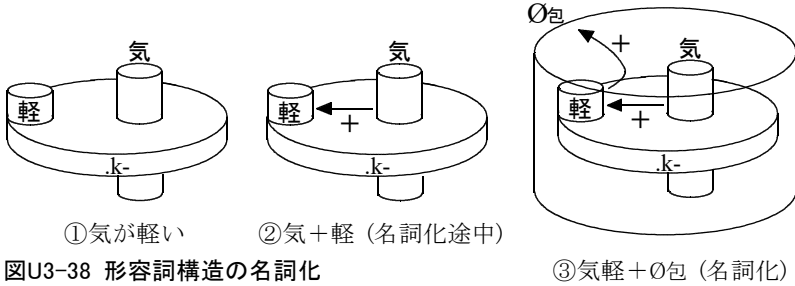
(5c) 包含実体とのつなぎ用法 + (無音)

包含実体=大円筒

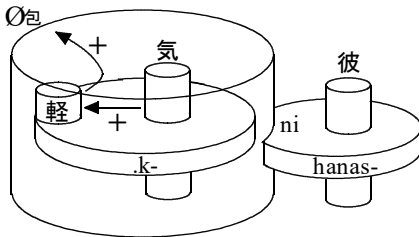
A17.1⑥

形容詞の全体が包含実体に入って実体化(名詞化)します。

- ①「気が軽.k-」 → ②「気+軽」〈実体と形容実体つなぎ〉 名詞化途中
 → ③「気軽」+〇包 〈形容詞構造の包含実体内収め〉 名詞化「気が軽いこと」

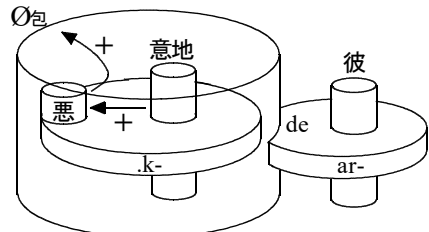


図U3-38 形容詞構造の名詞化



気+軽+〇包-ni hanas-

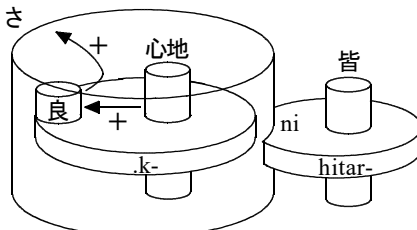
図U3-39 彼〇は気軽に話す



意地+悪+〇包-de ar-

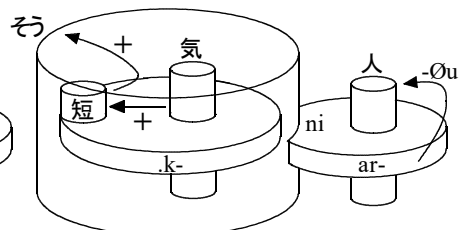
図U3-40 彼〇は意地悪だ

形容詞構造を名詞化するのには「〇包」のほかには「さ／げ／そう」もあります。



心地+良+さ-ni hitar-

図U3-41 皆〇心地よさに浸る



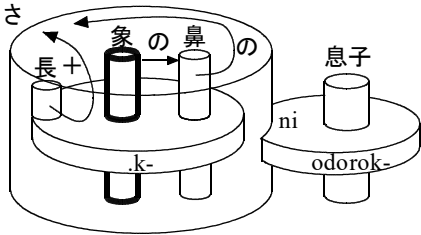
気+短+そう-ni ar-u 人

図U3-42 気短そうな人

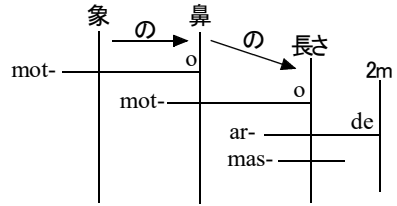
問U3-15 「彼は気まずそうだ。」の構造を図示してください。

問U3-16 「彼に力強さを感じる。」の構造を図示してください。

★「象の鼻の長いこと」の意味で、「象の鼻の長さ」のように属性主体「鼻」が「の」で包含実体を修飾することもあります……「象の鼻の長さ



図U3-43 息子の₁は象の鼻の長さに驚く



図U3-44 象の鼻の長さは2mです

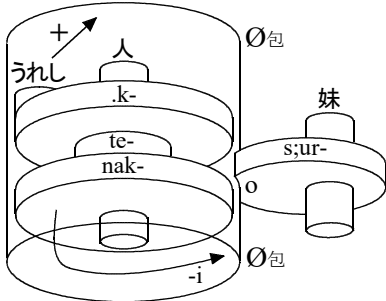
「象の鼻の長さは2メートルです。」という場合は、構造内に特に形容詞はなく、「象の(もつ)鼻の(もつ)長さは2メートルで(あります)。」の構造と考えられます。

★動詞の作る包含実体を形容実体がつなぎ修飾をする場合もあります。

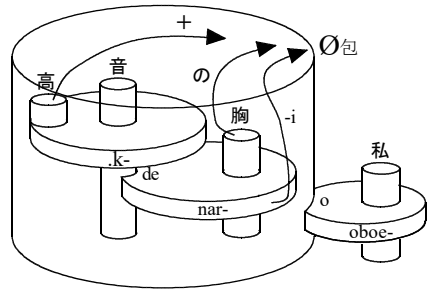
うれし + nak-i=Ø包 (うれし.k-u=te-Ø=nak-) (図U3-45)

★さらに動詞の主体が包含実体を「の」で修飾する場合もあります。

胸の 高 + nar-i=Ø包 (胸-ga 高.k-u=nar-) (図U3-46)



図U3-45 うれし泣きをする



図U3-46 胸の高鳴りを覚える

さらに包含実体が外部の実体を「の」や「+」で修飾する場合もあります。

早 + sak-i=Ø包の桜 (早咲きの桜)

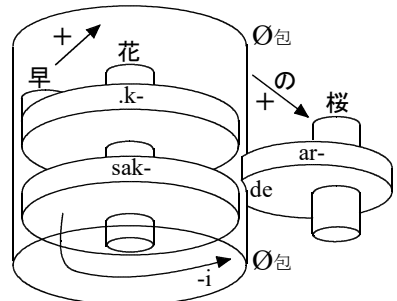
早 + sak-i=Ø包+桜 (早咲き桜)

(桜₀₁は早 + sak-i=Ø包-de ar-)

sak-i は zak-i と発音されます。

(haya.k-u-Øni sak- の構造も考えられます。)

図U3-47 早咲きの桜／早咲き桜



(6) 形容実体の他の用法

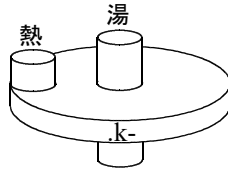
形容実体の「つなぎ用法」以外の用法です。

8.4

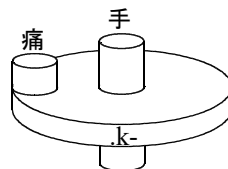
(6a) 感動表現の用法

感動を表すために形容実詞のみを描写します。

★ atu.k- (熱!), ita.k- (痛!), samu.k- (寒!), kusa.k- (臭!)



図U3-48 熱!



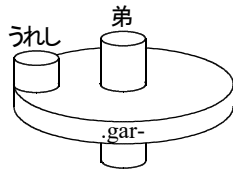
図U3-49 痛!

(6b) 動辞との融合用法

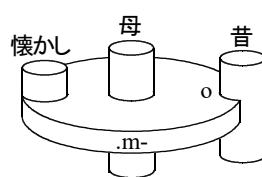
7.2

動辞と融合して動詞を作ります。動辞例: .gar- .bi- .m-

★ uresi.gar- (うれしがる), huru.bi- (古びる), natukasi.m- (懐かしむ)



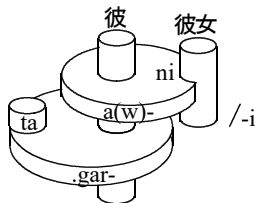
図U3-50 弟がうれしがる



図U3-51 母が昔を懐かしむ

動詞を上に乗せて使用する ta.gar- という形もあります。(本書p.19参照)

★ a(w)-i ta.gar- (会いたがる)



図U3-52 彼が彼女に会いたがる

問U3-17 「彼女の歌のうまさには定評がある。」の構造を図示してください。

問U3-18 「早起きは体に良い。」の構造を図示してください。

問U3-19 「歌を遅聴きモードで聞く。」の構造を図示してください。

問U3-20 「これ、うま!」の構造を図示してください。

問U3-21 「水が／を飲みたい」「水を飲みたがる」の違いを構造図示してください。

コラムU4

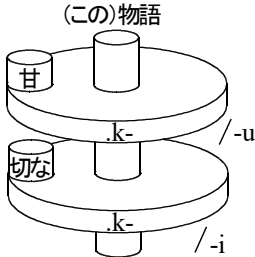
すごい切ない

次の文では形容詞「甘く」「切ない」が2つとも名詞「物語」の属性になっています。

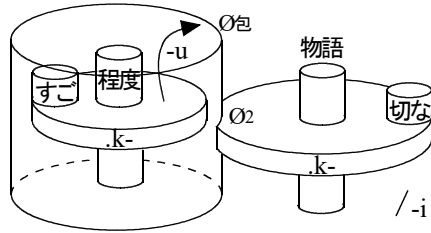
(1) この物語は 甘く 切ない。 (下左図)

しかし、次の文では「すごく」は名詞「物語」の属性ではなく、「程度」の属性になっていて、「(切ない)の程度が大きい」ことを表しています。

(2) この物語は (程度が)すごく 切ない。 (下右図)



図U4-1 甘く切ない



図U4-2 すごく切ない

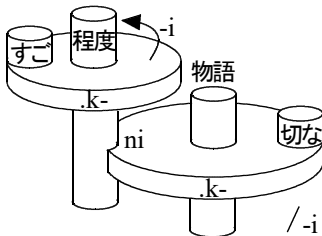
「甘く ama.k-u」と「すごく sugo.k-u」の-u は同じ-u でも機能がずいぶん異なります。「甘く」の-u は次の形容詞を続けるための「他属性連続描写詞」(本書p.30)です。「すごく」の-u はゼロの包含実体を修飾して、「すごい」を名詞化するための「実体修飾第2描写詞」(本書p.33)です。(例: too.k-u 遠くから来る。tika.k-u 近くに住む。)

「すごい切ない」の2とおりの説明可能性

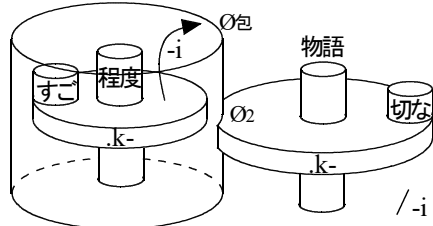
[1] 「実体修飾第1描写詞 -i」で「程度」(のような)実体を修飾した上で、自明である「程度」を省略すれば「すごい程度切ない」になります。(下左図)

[2] また、この -i を「すごく sugo.k-u」の -u の代わりに使用すると、文法慣用にははずれますが、その分独特の印象の表現になります。(下右図)

[2]は文法慣用にはずれる要素があるので、[1]のほうがより自然な説明です。



図U4-3 すごい(程度に)切ない



図U4-4 すごい切ない (上右図と比較)

※この「すごい」に似た形容詞に「えらい」「ものすごい」があります。